



先生のおすすめ絵本

おおきな木

〈作・絵〉シェル・シルヴァスタイン 〈訳〉本田錦一郎 〈出版〉徳崎書林



1964年にアメリカで発表以来、世界中で翻訳され続けてきているロングセラー絵本をご紹介します。原題は『The Giving Tree』与える木という意味でしょうか。内容は、「昔りんごの木があって…かわいいちびっこ なかよし。」で始まります。子供はりんごの木で木登りをしたり、枝にぶら下がったり、りんごを食べたり…。しかし、子供は成長し、それに伴って考え方も子供の頃とは違ってきます。「お金が欲しい」「家が欲しい」「船をくれ」と。その都度、木は自分の身を削って与え続けます。長い年月が過ぎ、年老いた少年が木のもとに戻ってきた時、少年は「座って休む静かなところがありさえすれば…もう疲れた」とつぶやきます。実も枝も幹もなくなり切り株だけになってしまった木は精一杯背筋を伸ばし、「さあ、坊や腰掛けて休みなさい。」と語りかけます。「木は、それで嬉しかった。」で終わります。一本のりんごの木が一人の人間に限りない愛を捧げる美しくも悲しい物語です。絵は線画でモノクロという非常にシンプルで、文章も分かり易く優しい言葉で綴られています。翻訳の本田錦一郎さんの物故により、近年は、村上春樹さんが翻訳したものがあすなろ書房より出版されています。このやり取りのニュアンスは少し変わりましたが、読み進める中で「りんごの木」を「母親」と見るか「友人」や「自然」と見るかなどは、年齢によっても置かれた状況によっても、様々な解釈と感想が出てくることと思います。折々に想像力を働かせ何度でも読み返したい名作です。

園長 H 先生

へんてこもりにいこうよ

〈作・絵〉たかどのほうこ 〈出版〉偕成社



そらいろ幼稚園に通う仲よし四人組は、園の裏にある通称「へんてこもり」で遊ぶことにしました。森に入った四人がひとしきり遊んだ後に始めたのは、どうぶつしりとりです。お話は、このどうぶつしりとりをきっかけに展開していくのですが、とても楽しい体験なのです。「ぞう」→「うし」→「しろながすくじら」→「らくだ」→「うま」→「???」何を思い浮かべますか？ この「???」から始まる展開がとても楽しい一冊です。絵本よりも少し厚みがある児童書なので、読んで聞かせてあげるにも多少時間はかかりますが「少し長めのお話を読んで聞かせてあげようかな」という時期におすすめです。途中で区切って「続きは明日ね」と少しずつ読むのも楽しいと思います。我が家でも、毎晩の読み聞かせが続いています。読み聞かせができるのも何歳までなのでしょう。限られた時間かと思うと、とても貴重な時間に思えますね。

U 先生

読み聞かせノートより

はじめてのおつかい

〈作〉筒井 頼子
〈絵〉林 明子
〈出版社〉福音館書店



5歳のみいちゃんがママからおつかいを頼まれて、初めて一人でのおつかいに行くことになりました。ママからももらった100円玉2つを握りしめてお店に向かうのですが、子供から見た目線や気持ちがとてもよく伝わってきて、みいちゃんのドキドキが、もも組のみんなにも伝わったようで、とっても真剣なまなざしでみんな聞いてくれました。また、ママからの目線でみても、ママの気持ちが伝わってくるととても素敵な絵本でした。

〈前年度 もも組 N〉

どっしーん！

〈文・絵〉岩田 明子
〈出版社〉大日本図書



表紙の涙目のわにの絵からすみれ組の皆の興味を誘っていたこの本。急いでどこかへ走っている動物たち。「どっしーん」とぶつかってしまうと、なんとくっついてしまうのです。うさぎと鹿がぶつかって うさぎに角がはえた「うさしかくん」に。今度はわにくんとぶつかって、「うさしかわにくん」に。次々にぶつかって面白い生き物に変わっていくのが楽しかったようです。

〈前年度 すみれ組 W〉

※紙面で紹介している絵本の表紙画像の掲載には、出版社の許諾をいただいております。



編集後記

先日、子供の小学校の運動会を見に行きました。子供達が真剣に競技に取り組む姿、全力で応援する姿、自分の役割を果たすために頑張る姿などを見て、成長を感じ感動してウルウルしてしまいました。そんな中で、先生方の原稿を読んで、子供達との限られた時間をどのように過ごしていこうかな？と改めて考えた編集作業でした。

〈ふじ組 T〉

今年度の読み聞かせが、年中・年長クラスで始まりました。年少クラスは2学期からの予定です。「読み聞かせの会プレーメン」ではメンバーを募集中です！読み聞かせに興味がある方は見学会を設けています。
6月4日(火)か 6月11日(火) 13時20分に 絵本の部屋(給食室の上)へ。事前申込は不要です。